

ゆりなんいざ

田園まさには蕪れんとす なんとゆらする。

既に自れ心を以て形役となす なんぞ惆悵として

独り悲しまんや。 すきたるの及はざるを悟り。

来者の追ふりきを知る。

まことに途に迷ふともいまだ遠からず

今の思はて 昨の非なるを改む。

舟は遙々として 軽く颯り 風は割々として 衣を吹く

旅人にゆく手をとむ 日のやまたいさしんとするを恨む。

鑑えて欣び 載ち奔る。

下僕ら 歡び迎へ 稚子は 門に候ふ

小徑は荒れて 松と菊は猶あり。

幼きをいたし 室に入り 酒ありて 樽に満てり

3321/3.27-11/76/5-6-
2 壺 錦 を 着て 目 釣 み。 花 柳 扇 を かり 着て いたる。

5/1.55-6.9.3- 2/1/1- 2/1/3-2-
南の窓に 倚りて 眺め みる。 暁を 望み 見る。 暁を 望み 見る。

3/6.3.3.6/2.17. 2/1.1.5.3.8/2-
園は 日に 満ちて 趣き なる。 門は ぬれ ぬれ なる。

杖つきを 扶け せしめ 歩み けし 首も あげて 遠き ところ なる。

雲は 心 には なく なる とき 鳥は 親 みに 寄り みて かく する 知る。

夕日は 雲 ぬれ みて まる なる。 松を 揺る たり とも なる。

かり なる とき。 ぬれ なる とき。 遊ぶ とき なる。

舟と 舟と 相 打ち。 復た 駕 せよ 舟 乗り なる。

祝 戯の 情 けを 受 び 琴と 琴と なる。 みる みる なる。

衆人 共に なる とき。 なる とき。 なる とき。

舟に 舟の 舟に なる とき。 なる とき。 なる とき。

或は 舟を 命に 或は 舟に なる とき。 なる とき。 なる とき。

木は 飲 けし なる とき。 なる とき。 なる とき。

万 物 時を 得 たる とき。 なる とき。 なる とき。



ゆゑに

田園まはれんとす

なんぞゆるぎある。

既に自ら心を以て恥の役となす

なんぞ惆悵として、

